



祝・100回公演!

「のだめ音楽会」の 新たな幕開けは、もちろん 聖地・春日井で!

2006年に春日井で初演して以来、日本全国に広がった、生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会。各地のオーケストラ、お客様とともに作り上げてきた「楽しい音楽の時間」が積み重なって、ついに公演回数100回を迎えます。初演に来てくれた方も、最近「のだめ」を知った方も、クラシック音楽ファンから初心者まで、全ての人に贈る、スペシャルな公演をぜひ、ご一緒に♪



2013.6.2春日井市制70周年記念公演の様子:「のだめ音楽会」は全国34都市、13万人以上のお客様にご来場いただいています。



©二宮知子/講談社

リアル千秋さま?!
春日井から
羽ばたくピアニスト

河尻広之 インタビュ

100回記念公演のソリストにお迎えするのは、2018年ブラームス国際コンクールで第2位に選ばれた、春日井出身の現役藝大生 ピアニスト・河尻広之さん。真摯に音楽と向き合う、その素顔にせまります。



©二宮知子/講談社

——河尻さんは、中学まで春日井に住んでいらしたんですね。
「篠木小、東部中に通っていました。中学生の時、春日井市民会館のピアノでコンチエルトを演奏したこともありですよ。春日井は生まれ

——現役藝大生の河尻さんですが、「のだめカンタービレ」に共感する部分はありますか?
「さあ、楽しい音楽の時間です。『さあ、楽しい音楽の時間』という台詞が大好きなんです。良い演奏をするためにも、自分が楽しみ、感動することが大事だなと思っています」

——今回演奏するのは、ラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」です。
「ラフマニノフは体格も手も大きい人だから、どの指にも意識がしっかり通ってないと表現しきれません。あと指が2、3本欲しいくらい。ラフマニノフもブラームスも、多声的で難しい作曲家。でも、僕はそういうのが好きなんです」



単行本5巻(Lesson26) ©二宮知子/講談社

——演奏する時に、大切にしているのはどんなことですか?
「ピアノは、オーケストラの色んなパートを自分の指だけで表現できる。だから頭が、指揮者。聴く人に伝えるために、ここはトランペット。右手の小指はフルートと、自分のイメージを明確に作る

——茂木大輔さん、名フィルのみなさんとも初共演ですね。千秋とミルヒー、Aオケとの共演が再現されそうです。
「千秋みたいに、髪の毛をピョン

ピョンさせてさけるとか…。衣装ぐらい寄せていこうかなあ(笑)。茂木さん、名フィルさんとはお互い初めてですし、少しずつ耳を傾けながらやっていくと思うんですけど、その中で、調和するところが見えてくるのが楽しみです」



単行本5巻(Lesson26) ©二宮知子/講談社



指揮者・茂木大輔

「のだめ音楽会」 100回記念公演に寄せて

「のだめカンタービレの音楽会」100回記念公演、本当におめでとうございます。春日井市民会館の職員 小松淳子さんが原作の「のだめカンタービレ」の大ファンで、取材協力Special thanksに小さく書かれていた僕の名前を発見して、東京まで会いに来てくれた日のことを僕はよく覚えています。その場でコンサートの企画がどんどん出来上がり、全国で初めて「のだめ音楽会」が、この春日井市民会館で行われたのです。その企画は数年のうちに全国に展開して、全国で多くのお客様に楽しんで頂き続けて来ました。一口に「ロングラン」と言いますが、このコンサートは同じ企画・舞台をずっとやり続けて100回目になったのではありません。実は毎回新しく企画を作り、新しいテーマに基づいた選曲にしています。今回の「のだめファンタジー」や、千秋が指揮者コンクールで「間違い探し」に挑んだドボルジャーク「交響曲第8番」もまた、満を持しての新企画・初登場演目です。春日井を中心として新しく生まれ変わり続ける「のだめ音楽会」に、今後ともどうぞご期待ください。

生で聴く
“のだめカンタービレ”の音楽会
100回記念公演
6/29(土)・30(日)ともに15:00~
@春日井市民会館

詳細情報は、裏表紙で Ticket Guide